

研修医新聞

平成27年10月30日 第60号

榎本 尚助(三重大学附属病院)
杉浦 彩(東京大学附属病院)
山岸 惇史(堺市立総合医療センター)

榎本 尚助 (三重大学附属病院)

僕は紀南病院で主に外科研修を行いました。手術や手技だけでなく、終末期医療も多く経験しました。これまで僕が研修してきた病院に比べ、患者さんの年齢層が高いという背景があるためだと思います。患者さんが良い最期を迎えるために、我々医療者側がどのように接すればいいのかというヒントを本研修で得ることができました。

大学病院などでは各分野の専門家が揃い、それぞれの角度から専門的な治療が行われます。裏を返せば、専門分野以外のところはみられにくいということでもあります。逆に地域医療では、患者さんの全体をみていかなければなりません。様々な分野の知識や技術を要するので、一人のスタッフが果たす役割が大きくなって大変な分、やりがいもあると感じました。但し、全体をみるとは言っても、制限がない訳ではなく、スタッフ個人あるいは地域に合わせて制限を判断していくことが地域医療の難しさでもあると感じました。

病院から出て、消防署、タウンミーティング (@粉所)、尾呂志診療所、紀和診療所、巡回診療なども経験しました。紀南病院も含めて、地域の医療を支える各スタッフには、「この地域を支えていくんだ」と覚悟を決めた眼をした方が多いと感じました(実際に聞いてはいませんが←)。地域の住民の方々も、健康に関心を持ち、病気にならないように努力されていることも知りました。住民、訪問介護、リハビリなど様々なスタッフが繋いでくれた思いを受けとめる覚悟が、病院には必要なんだと、病院の外に出たことで気付きました。

今回の研修を通して、安全な医療を提供し、地域を支え続けていくことが地域で働く医師の使命なんだと実感しました。僕は今後、幾つかの病院を回り、様々な経験をして(するはずですが、いや、したいです)、いずれどこかの地域を支え続けていくことになると思います。今回の経験を活かしたいと思います。

杉浦 彩 (東京大学附属病院)

1ヶ月間お世話になりました！三重県に足を踏み入れるのも初めて、市中病院で働くのも初めて、救急で研修医1人も初めて・・・と初めてづくしの地域医療で、期待半分不安半分で10月を迎えました。あつという間の1ヶ月を終えてみて、最初の不安なんて杞憂でした。指導医の澤先生はじめ先生方は熱心に、そして丁寧にご指導くださり、患者さんも皆さん優しい方ばかりで楽しく過ごすことが出来ました。大学病院のような大きな病院では出来ないような経験をたくさんさせて頂き、医師として少しは成長できたかなと思います。

初めての三重県だったので週末の観光はすごく楽しみでした。伊勢神宮・熊野三山にお参りに行き、熊野古道を毎週歩き人生を考え、鬼ヶ城の風景を楽しみ、花の窟で神話の時代が

由来となる建造物に驚き、那智勝浦温泉では疲れを癒し、串本では水平線を眺め、清流荘ではトロッコ電車で子ども以上にテンションを上げ、瀨峡では自然が造りだした風景に見とれて・・・と、悔いを残すことなく南紀地方を楽しみました。唯一悔しかったのは後下りの時期が終わっていたことです、いつかリベンジしに来ます。

短い期間ではありましたが地域医療を経験したことで、医療や終末期への考え方も変わってきました。今後医師を続けていく中で、本当に貴重な経験をさせて頂きました。

お世話になった皆様、ありがとうございました！



山岸 惇史 (堺市立総合医療センター)

自分は石川県の僻地の出身です。専門は呼吸器内科と考えていますが、呼吸器内科医として1人前になった後は、将来的に地元で家庭医をやりたいと思っており、その意味でも紀南病院での研修は将来を考える意味でも非常に有意義な体験でした。僻地の中核病院で働く先生方のカバー範囲の広さや、可能な限り院内のスタッフで解決し、難しい時には転院搬送する判断力など、僻地であっても極めてレベルの高い医療を行っている先生方の診療能力に驚きました。若手の間に紀南病院のような病院で1-2年働くことは、大変充実しているだろうと感じました。診療所研修では地域の人たちとの関わり方を診療所の先生方から学び、自分に足りていない事を見つけられた気がします。また、山本先生に付くことで、現在勤務している堺市立総合医療センターでローテートしていない消化器内科研修を中心に行えたことも、勉強になりました。

休日はお休みが頂けることが多かったのも、熊野・尾鷲・那智勝浦を中心に三重県と和歌山県を観光でき本当に楽しかったです。

最後になりましたが、指導医の山本貴之先生をはじめ、奥野先生、北村先生、平谷先生、塩谷先生、紀南病院の他の先生方、医療スタッフの皆さん、研修担当の清水さん他事務の方々、関わっていただいたすべての方々、1カ月間本当にお世話になりました。今後、紀南病院に来る縁がございましたらよろしく願い致します。